

## がん

**見直しの視点**

- (1) 視点2 計画策定後の変化（小児・AYA世代のがん患者への支援の充実）
- (2) 視点2 計画策定後の変化（働きながら治療を受けるがん患者への支援の充実）

**見直しの背景**

## (1) 小児・AYA世代のがん患者への支援の充実

- 小児及びAYA世代のがん患者は、がんの治療の影響で生殖機能が低下し、子供をもつことが難しくなる可能性があるため、がん治療の前に、治療による影響を伝えるとともに、生殖機能の温存の選択肢があることなどの情報を十分に提供することが必要です。
- また、生殖機能温存のための治療費は、医療保険適用外のため、経済的な負担が大きいことから、全国的にも、負担を軽減する取組が進んできています。

## (2) 働きながら治療を受けるがん患者への支援の充実

- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、企業や事業所において、テレワークや時差出勤等の取組が進められています。
- 多様な働き方の広がりにより、働きながら治療を受けるがん患者の受療行動にも変化が生じている可能性があります。

**課題と取組の方向性**

## &lt;課題6&gt; ライフステージに応じた医療・相談支援体制

## (1) 小児がん患者及びAYA世代のがん患者

## (新規)

- 東京都は、AYA世代のがん患者の支援策を検討するため、これまでに病院や患者、家族を対象に実態調査を行い、また、他の自治体における生殖機能温存のための費用助成の取組について調査を実施しました。

## (新規)

- こうした調査の結果では、生殖機能温存について、患者や家族が、がん治療への影響について十分に理解したうえで意思決定をするための支援や費用に対する助成、拠点病院等と温存治療を実施する医療機関との連携が求められています。

(取組 6-1) 小児・AYA 世代のがん患者への支援の充実 [基本目標 II、III、IV]  
(新規)

○ AYA 世代のがん患者が将来の妊娠に備え、希望をもってがん治療に取り組めるよう生殖機能温存の助成制度を開始します。

(新規)

○ また、意思決定のための支援やがん治療医と生殖機能温存治療医の連携を推進する取組を実施します。

<課題 6> ライフステージに応じた医療・相談支援体制

(2) 働きながら治療を受けるがん患者 (働く世代・子育て世代)

(新規)

○ 新型コロナウイルス感染症の影響により企業や事業所における働き方が多様化したことなどに伴い、がん患者の受療行動の変化に応じた取組が求められます。

(取組 6-2) 働きながら治療を受けるがん患者への支援の充実 [基本目標 II、III]

(新規)

○ がん診療連携拠点病院等や患者に対して実施した、がん患者の受療行動の変化等に関する調査結果を踏まえ、東京都がん対策推進協議会の就労支援ワーキンググループにおいて、がん患者が治療を受けながらその人らしく働き続けるために必要な支援策等を検討していきます。